



つばめタクシー社長 滝沢さんの
西鶴賀歴史コラム ⑦

【もう一つのお祭り】

御柱祭と氏子町・西鶴賀町

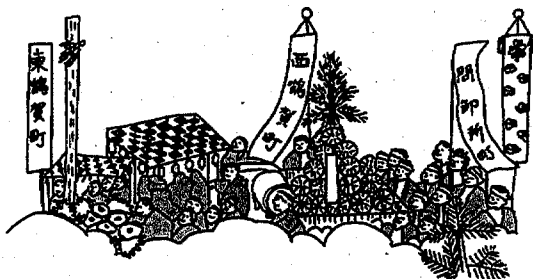
～大正15年 武井神社御柱祭での揃い半纏～



今回は、西鶴賀町の揃いの半纏についてのお話です。隣町である権堂町の歴史書「権堂町史」には、大正15年の武井神社御柱祭の記録として、こんな新聞記事が掲載されています。

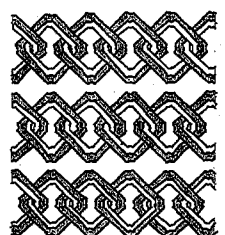
全市を挙げて興ず御柱曳、
歌い続け踊り狂く武井神社御柱祭

午前八時に城山泉社から神輿を迎えて、糸白とソビリの幟を先頭に出発。関係17町に亘り、稚児大紋830名が花の様な美しい揃いの姿で長い行列を作り、各町より出ず、標神山神輿(※下図)後につづいて糸練り廻り、



御柱は1番東町、2番田町、3番権堂町、4番東鶴賀町の川原で曳かれ、其れに各町俵物が入る。数百年の芸妓が木遣音頭をやる筈で、次いで遊郭芸妓の底技屋台、西鶴賀町若者連は揃いの吉原半纏姿で三尺以上の大太鼓を叩いて案内役を務め、これに続いて奉納物を携えた各町連の揃い姿が引け無しに続き、そのお祭り行列は延々半里にも達し壯観を極めた。

西鶴賀町から武井神社に奉納され、現在も保管されている大太鼓。三尺＝約90cm



「吉原半纏」は、日本の伝統文様の「吉原つなぎ」をモチーフにしています。その由来は「吉原遊郭の金貨」ですが、圓いつなぎや良縁を意味する縁起の良い柄として用いられています。御柱を機に新調された半纏には、町の糸吉束と他町とのつなぎりが表されているのです。

着物にまつあるイベント「門前きものこまち2」の一環で、11月20日(日)つばめタクシー滝沢さんによる「古地図でまちあるき」が開催されました。権堂町が花街として栄えた大正期の地図からはじまり、芸妓や料亭、社寺の変遷を年表形式で紹介。まちあるきゴール地点の



聴き入る方もいらっしゃいました。民謡の「信濃よこしこ」。生演奏の響きは格別で、音に合せてうなずきながら、音あでびで楽しく踊る曲や、新用のアレンジした曲。宴もたけなわで比目で楽しく踊る曲や、新

西鶴賀町公民館では、当時からのお座敷文化を体験すべく、邦楽奏者の方々による「お座敷演奏会」も開かれました。演奏されたのは祝いの席で唄われる曲や、木遣りをお座敷用にアレンジした曲。宴もたけなわで比目で楽しく踊る曲や、新

西鶴賀町公民館で
お座敷演奏会



発行
長野市中心市街地活性化協議会
長野県建築士会
ながの支部
西鶴賀町

秋の色

今月の西鶴賀町は、しみじみ噛みしめたいような秋の色でいっぱいでした。すてきな景観をおすすめさせていただきます。お店やお宅のみなさま、ありがとうございます。エビスパンでは、おみさんが神社のイチョウの葉でバラの花を作って飾っていました。もみじなどのきれいな葉は、ボードを両面にうすく塗って吊るして乾かすと「しおり」としても楽しめるらしいです。

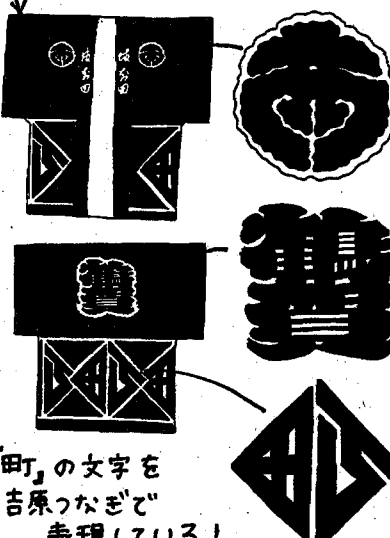
西鶴賀町公民館では、当時からのお座敷文化を体験すべく、邦楽奏者の方々による「お座敷演奏会」も開かれました。演奏されたのは祝いの席で唄われる曲や、木遣りをお座敷用にアレンジした曲。宴もたけなわで比目で楽しく踊る曲や、新

古着屋
POTAMA 福島くん
日記③

今年も夜に外へ出ると、火油屋さんのトラックから流れる「雪やこんこ」が聞こえてくるようになった。毎年この音を聞くと、冬がや、てきたなと季節の変わり目を感じる。この町に引越してきたばかりの頃、「古民家で迎える長野の冬はやばい」とみなさんに忠告されたが、内心では「ヒートテックで乗り切れる」と甘く見ていた。しかし蓋を開けてみれば、カウチの水は凍り、水道管は凍って水は出ず、しまいにはシャワーヘッドからつららが伸びた。今年も西鶴賀町で迎える3度目の冬。今度こそ、去年までの失敗を生かしてこの冬を乗り切りたい。

編集室より追記

「大袖」袖がすばまっていなので、下に着物が着やすい



「田」の文字を「吉原つなぎ」で表現している!